

平成21年度事業概況

事業の方針および金融経済環境

平成21年度は、新三カ年計画「釧路しんきん「つなぐ力」発揮2009」の初年度として、事業計画の基本方針を「経営基盤の拡充と収益力の強化」と掲げ、役員が一丸となり、各重点課題及び具体的な方策を実践することにより、地域やお客様からの信頼を得るべく真摯な経営を遂行してまいりました。

世界的な信用収縮や金融不安の緩和、さらに政府の低燃費車やグリーン家電の普及促進策などの効果もあり、国内の景況感はやや改善しましたが、引続き設備投資や個人消費といった内需の回復については懸念される状況であり、必ずしも良好な経済環境であるとはいえませんでした。

一方、地域経済におきましても、基幹産業の水産業では、水揚げ数量が微増ではあったものの、水揚げ金額は魚価安の影響から前年を下回り、建設業界においては、公共事業は昨年とほぼ同水準でありましたが、新設住宅着工戸数の減少などから厳しい状況が続いております。個人消費はエコポイント制度導入などで順調に推移はしていますが、消費にむかう資金は限定的であったため、増加幅は縮小傾向に推移をしております。しかしながら観光については、道東を舞台とした中国映画の海外での好評もあり、外国人観光客の来訪増加により、売上げでは数年ぶりに前年同月比を上回る局面もありました。

業績

平成21年度事業計画の具体的方策の一つとして掲げている年金推進体制の構築から年金プロジェクトチームを立ち上げ、年金受給口座の獲得の強化を行ったことや、公共料金、給与振込等の基盤拡充商品の強化、さらには「期間限定特別定期預金」や釧路市動物園の生まれつき障害を持つアムールトラを応援する「タイガとココア応援定期」を発売した結果、個人定期預金を中心に伸び、預金は期末残高179,409百万円と、前期比5,895百万円、3.39%の増加となりました。

一方貸出金に関しては、住宅ローンなどを中心とした個人向けローンはもちろん、金融円滑化法の施行を受け、休日相談会などを実施し、積極的に取り組みましたが、地域経済は一部回復の兆しは見せているものの、経済環境の好転とまではいならず、これら地域経済の環境下においては、個人消費は思いのほか軟調であったことと、貸出金の償却などの要因もあり、期末残高は100,446百万円、前期比5,123百万円、4.85%の減少となりました。

収益面では、経常収益は3,787百万円と前期比208百万円の減少となりましたが、与信関連費用が大幅に減少したことと、短期金利を中心とした金利低下の影響による、預金利息の減少から、経常利益は前期比375百万円増加の442百万円となり、当期純利益は前期比318百万円増加の341百万円を計上する決算となりました。

最近5年間の主要な経営指標の推移

	単 位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
経 常 収 益	千円	3,851,010	3,836,202	3,953,547	3,995,118	3,787,116
経 常 利 益	千円	789,045	455,174	262,759	66,868	442,564
当 期 純 利 益	千円	490,348	293,868	154,188	22,703	341,013
出 資 総 額	千円	706,179	706,179	706,179	706,179	706,179
出 資 総 口 数	口	1,412,359	1,412,359	1,412,359	1,412,359	1,412,359
純 資 産 額	百万円	7,036	7,361	7,243	6,975	7,673
総 資 産 額	百万円	173,759	178,232	177,908	182,034	188,619
預 金 積 金 残 高	百万円	163,145	169,053	169,041	173,513	179,409
貸 出 金 残 高	百万円	95,497	97,772	99,053	105,570	100,446
有 価 証 券 残 高	百万円	45,950	48,480	54,246	49,303	57,735
単 体 自 己 資 本 比 率	%	11.12	10.91	10.75	11.11	12.75
出 資 1 口 当 たり 配 当 金	円	20	20	20	20	20
職 員 数	人	159	162	158	161	163

事業の展望及び当金庫が対処すべき課題

平成22年度の地域経済は、不安定な雇用環境から管内人口の減少を背景とする個人消費の低迷、公共事業も伸び悩む中、引続き厳しい状況が継続されることが予想されます。管内の景況感も景気先行きの不透明な状況から資金需要は限定的となっており、それら市場での他金融機関との競争は激しく、利鞘も縮小傾向にあります。不良債権の処理費用や混迷する金融市場の影響による有価証券の減損処理の可能性などもあり、安定した収益力の維持・確保は経営において最優先課題となっております。

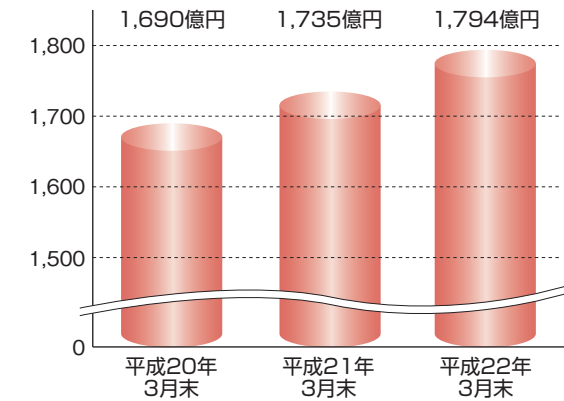
平成22年度は新三カ年計画「釧路しんきん「つなぐ力」発揮2009」の中間年度として、「金融機能の発揮と収益力の強化」を基本方針と位置づけ、引続き地域金融機関としての責務を果たしてまいりたいと考えております。

業績の概要

預金積金 1,794億09百万円

平成22年3月末の総預金は、1,794億09百万円となり、金額では対前年度比58億95百万円の増加、年間増加率は3.39%と堅調に推移しております。

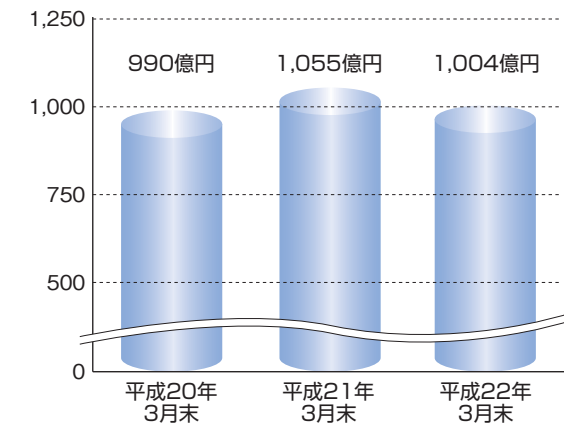
詳しくは6ページをご覧ください。



貸出金 1,004億46百万円

平成22年3月末の総貸出金は、1,004億46百万円となり、金額では対前年度比51億23百万円の減少、年間減少率は4.85%となりました。

詳しくは6ページをご覧ください。



自己資本比率 12.75%

自己資本比率は、金融機関の財務体質の安全性を示す評価基準であり、国内で業務を行う金融機関においては4%以上の確保が必要となります。平成22年3月末の自己資本比率は12.75%と国内基準はもとより国際基準8%をも上回る水準を維持しております。

平成21年度についても、自己資本比率規制の一部を弾力化する特例(平成20年金融庁告示第79号)に基づき、「その他有価証券の評価差損」を基本的項目から控除しておりません。

詳しくは26~36ページをご覧ください。

